

第9期 中間事業報告書

2002年7月1日から2002年12月31日まで



GOODWILL  
GROUP



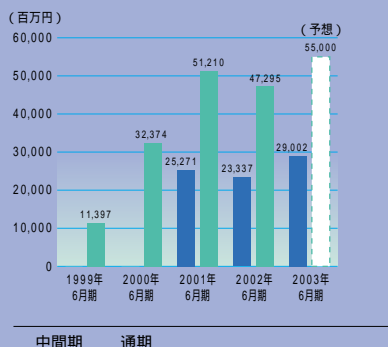
グッドウィル・グループ株式会社

証券コード4723

## 連結決算ハイライト

中間経常利益が過去最高に。

### 売上高



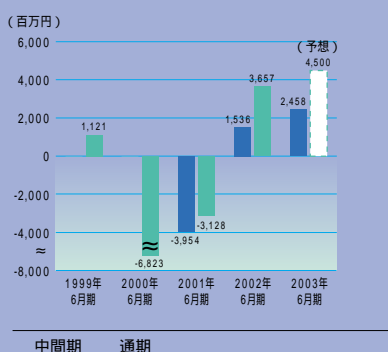
中間期 通期

### 売上高

連結売上高は前年同期より56億64百万円増加して290億2百万円になりました。(前年同期比24.27%の増加)

グループ事業の「選択と集中」が一巡し、新事業体制が定着し、どの事業も安定して業績が拡大基調となっております。主力の軽作業請負事業と介護・医療支援事業が堅調に推移したことにより、大幅増収となりました。

### 経常利益



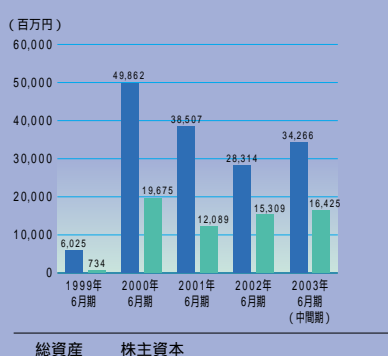
中間期 通期

### 経常利益

連結経常利益は、9億21百万円増加して24億58百万円になりました。(前年同期比59.96%の増加)

厳しい経済情勢の中、企業のコスト管理の徹底からアウトソーシング事業の重要性の認知度向上を背景に、さらに積極的な出店展開や営業強化を図った結果、グッドウィル・グループ単体の業績は計画を大幅に上回りました。急速な拡大が続く訪問介護サービスに対する需要に応えるため、拠点数の拡大やケアマネジャー及びホームヘルパーの採用・育成に注力いたしました結果、介護ビジネスの子会社コムスンも好業績となりました。

### 総資産・株主資本



総資産 株主資本

### 総資産・株主資本

当中間期の連結総資産は、342億66百万円、連結株主資本は、164億25百万円になりました。

当社グループが企業価値最大化のために最も重視しておりますことは、資産及び資本効率の向上です。

総合人材サービスを提供する当社では人材こそが最も大切な資産であると認識しております。人材という数値化されない資産を大切にしつつ、できる限り数値化される資産を少なくする。言い換えれば、余剰資産や低稼働資産を極力持たないことが、資産及び資本効率を高める上で大切であると考えております。個々の人材が最高のパフォーマンスを発揮しつつ、最小限の資産で高い利益をあげる。これが当社グループの追及する体制です。

成長戦略は発展し続けていきます。

### 今中間期の事業環境と業績

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第9期中間期（2002年7月1日から2002年12月31日まで）が終了いたしましたので、営業の概況などについてご報告いたしますとともに、ひとことごあいさつを申し上げます。

当期のわが国経済は、消費全般が低迷する中、景気はきわめて低調に推移いたしました。このような中、社会構造や産業構造はさらに激変しています。

グッドウィルグループは、現在、二つのコア・ビジネスを軸として事業展開しています。

軽作業アウトソーシングと人材サービスを中心とする「人材ビジネス」、そして高齢者在宅介護サービスを中心とする「介護ビジネス」の二つのコア・ビジネスに集中しています。

このような景気低迷下においても、両ビジネスは高成長を続けております。

また、マーケットの成長率を上回る業績の成長を今中間期も達成しております。

### 中長期の見通しと取り組み

高成長マーケットに経営資源を集中させている選択や着眼は、他社の追随を許しません。マーケットそのものの成長性に、当社の卓越した事業戦略やマネジメントスキルを付加することにより、名実ともに「総合人材サービスのリーディングカンパニー」としてその成長速度を加速させ続けております。

時間の経過や規模の拡大におごることなく、社是にも謳っております「弛まぬベンチャースピリット」を全社員が変わることなく持ちつづけます。

私たちは、株式会社の使命である企業価値の最大化を追求します。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2003年3月

グッドウィル・グループ株式会社  
代表取締役会長兼CEO

折口 雅博



グッドウィル・グループ株式会社  
代表取締役会長兼CEO

折口 雅博

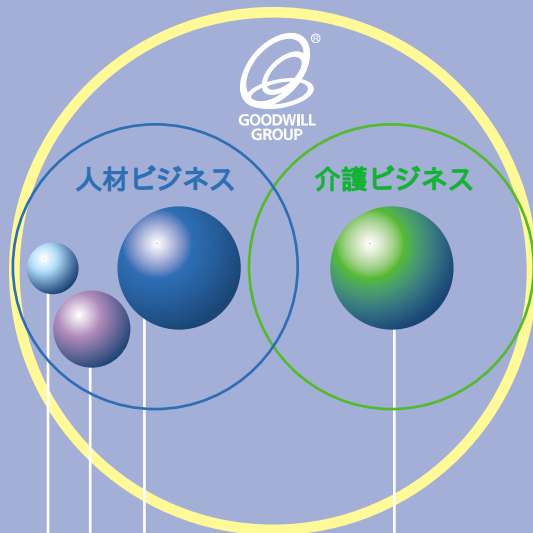
### 社 是

「弛まぬベンチャースピリット」

### グッドウィルグループ 十訓

- 一、お客様の立場にたて、究極の満足を与えよ
- 一、夢と志を持ち、常にチャレンジせよ
- 一、困難の先に栄光がある、逆境を乗り越えよ
- 一、物事の本質を見抜け、雑音に動じるな
- 一、原因があるから結果がある、公正に判断せよ
- 一、積極果敢に攻めよ、守りは負けの始まりなり
- 一、スピードは力なり、変化をチャンスと思え
- 一、自信を持って、謙虚さと思いやりを持って
- 一、笑顔と共に明るくあれ
- 一、正しくないことをするな、常に正しい方を選べ

グッドウィルグループは、  
人材ビジネスと介護ビジネスの  
二つのコアに集中し、  
企業活動を行ってまいります。



**グッドウィル・グループ株式会社**  
軽作業を中心に、イベント・販売促進、  
一般事務やIT関連まで幅広く人材サービ  
スを行っています。

**株式会社コムスン**  
24時間巡回介護モデル事業として、厚生  
省から日本で初めて指定された老舗の高  
齢者介護の専門会社です。

**株式会社グッドウィル・キャリア**  
EAP（社員カウンセリングプログラム）、  
OP（再就職支援プログラム）、ASP（組  
織の活性化プログラム）など心理学をコ  
ア技術として、カウンセリング及び職業紹介、  
各種コンサルティング、教育事業を行って  
います。

**株式会社ソア**  
展示会、見本市における企画制作・運営  
管理業務及びドライバー・アパレル等の  
専門的な人材サービスを行っています。

- グッドウィル・グループ株式会社
- 株式会社グッドウィル・キャリア
- 株式会社ソア

グッドウィル・グループ株式会社  
今中間期の業績

売上高

売上高は前年同期より58億52百万円増加して  
172億90百万円になりました。  
(前年同期比51.16%の増加)

経常利益

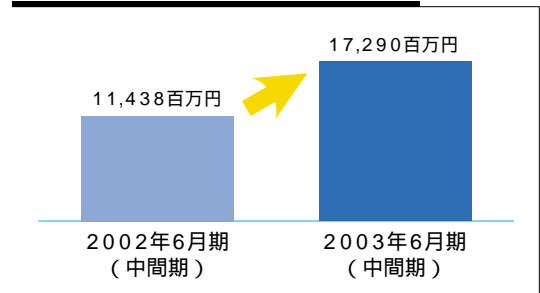
経常利益は、7億69百万円増加して19億82百万  
円になりました。  
(前年同期比63.42%の増加)

当期純利益

当期純利益は、4億17百万円増加して10億54百  
万円になりました。  
(前年同期比65.64%の増加)

経済情勢が厳しい中で、企業の人件費削減意欲が  
依然として強く、アウトソーシング業界にとっては  
追い風となりました。前連結会計年度において株式  
会社ラインナップと合併し、管理コストの削減や業  
務の効率化を進めた効果が全社的に浸透し、あわせ  
て当中間会計期間にはいってから積極的な出店展開  
を行ったこと、また営業強化を図った良い結果が出  
ております。

グッドウィル・グループ単体の売上高推移





## 業績好調の背景～

### アウトソーシング事業の重要性

企業には競争に勝ち抜くビジネスプランを念頭においた人材戦略が、個人にはキャリアプランの確立が求められます。この二つの要求を満たすのに有効な手段がアウトソーシングです。

### アウトソーシング活用のメリット

#### 固定費の変動費化

業務の増減による雇用調整、人件費を外注費に変えることにより、キャッシュ・フローを改善します。  
コスト削減

必要な時に必要な分だけ外注することで契約社員やアルバイトを採用するよりも、労力やコストを大幅削減します。

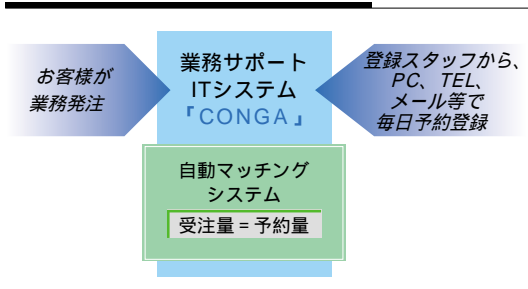
#### 業務のスピード化

需要の急激な変動にすばやく対応でき、勤怠管理や給与計算に費やす労力と時間を大幅にカットします。

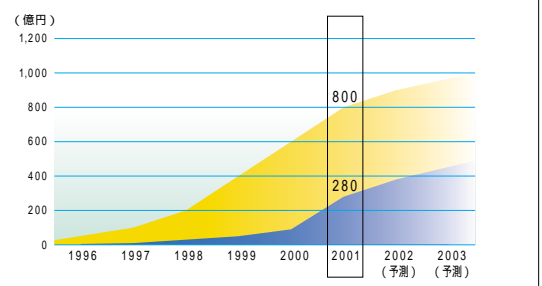
#### コア業務への経営資源の集中

繁忙期など大量に人材が必要なとき、そして突発的に必要なときに人材を外注することで、財務の強化や研究開発投資、営業力増強などに資金資源を投入可能です。

### 業務量と予約量のマッチングの仕組み



### 人材サービス市場の成長イメージ



グッドウィル・グループ 市場規模

### 人材アウトソーシング業界の動向

社会構造や産業構造が激変しており、それにともない雇用環境や日本人の就労に対する意識も大幅に変化しています。今後、人材の流動化はさらに進行していくことは明白です。

### 今後の成長戦略

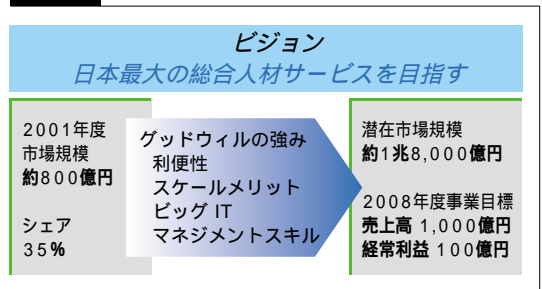
潜在的なマーケット規模は約1兆8,000億円  
約20倍の成長余地

主にブルーカラー市場の賃金市場規模を  
リプレースする産業

$(1500万人従事) 44.9兆円 \times 4.15\% = 1.8兆円$

(リプレース率4.15%は、ホワイトカラー市場の賃金リプレース率を参照しています。)

### 成長戦略



株式会社コムスン



株式会社コムスン  
今中間期の業績

売上高

売上高は前年同期より34億82百万円増加して102億91百万円になりました。  
(前年同期比51.13%の増加)

経常利益

経常利益は、2億23百万円増加して6億25百万円になりました。  
(前年同期比55.72%の増加)

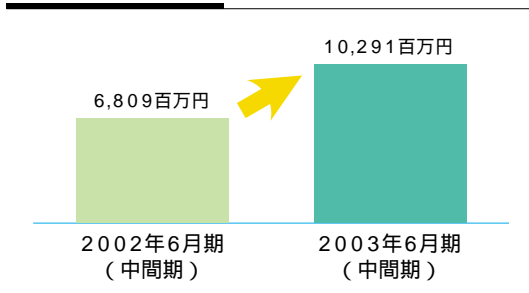
当期純利益

当期純利益は、3億53百万円増加して7億4百万円になりました。  
(前年同期比100.77%の増加)

急速な拡大が続く訪問介護サービスに対する需要に因えるため、拠点数の拡大、ケアマネジャー及びホームヘルパーの採用・育成に注力いたしました。

これによりサービス提供能力を確保するとともに、サービスの質を向上・担保していった結果、顧客数が期初の21,015人から当中間会計期末には27,537人へと増加し、売上・利益も大きく拡大しております。

コムスンの売上高推移



事業内容～

コムスンのサービスフィールド

コムスンというブランドイメージを共有。在宅介護、24時間介護で培ったノウハウをサービスフィールドの拡大に活かしていきます。

在宅介護サービス

- ・ケアマネジメント
- ・ケアサービス (身体介護・生活支援)
- ・訪問入浴サービス
- ・訪問歯科サポートサービス
- ・介護タクシーサービス (準備中)
- ・福祉用具販売とレンタル

施設介護サービス

- ・ケア付き有料老人ホーム
- ・グループホーム

ヘルパー養成事業 (準備中)





## 介護ビジネス業界の動向

人口統計学上の予想では、総人口の減少（少子化の影響）と高齢者人口の相対的な増加により、2015年には65歳以上人口が3,000万人を超え、高齢化率は2048年に32.3%のピークを迎えたとされています。

高齢化の推移と将来推計から、介護マーケットは約半世紀にわたり拡大成長しつづけることが予想されます。

そうなれば、社会構造上、民間によるプロの介護サービス会社が必要とされることは明白です。

## 今後の成長戦略

「明るい笑顔、愛する心」コムスの誓いのひとことです。

コムスの全社員・全スタッフは毎日「コムスの誓い」を唱和することから、すべてスタートします。

高齢者社会の重要な役割を担う「介護サービス」という新しいビジネスも十分に認知されてきています。

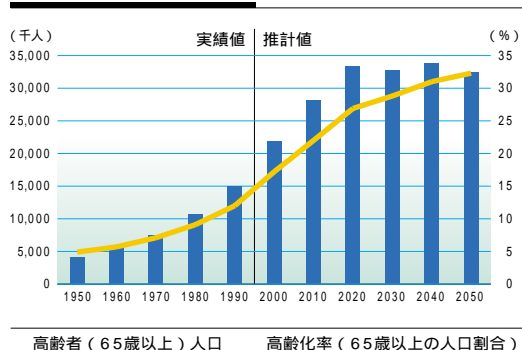
現在多くのご家庭で介護保険が利用されています。そして全国にコムスのお客様がいらっしゃいます。

自治体、医療機関、福祉施設の皆様との連携の形もそれぞれ発展しています。

「高品質のサービス」「お客様の満足」を目指し、さらに「安心」と「快適」を深めるようコムスは追求していきます。

「高齢者の尊厳と自立を守る」という企業理念のもとに、明るく豊かな高齢者社会を支えることを使命と考えています。

## 高齢化の推移と将来推計



## 成長戦略

**ビジョン**  
一人でも多くの高齢者へ  
コムスのサービスを提供する

2001年度  
介護事業の黒字化  
ビジネスモデルの確立  
シェア1.6%

マーケット規模  
半世紀にわたり  
安定成長

2012年度事業目標  
シェア 15%  
売上高 2,500億円  
経常利益 300億円

## コムスの誓い

私達は、一人でも多くの高齢者の尊厳と自立を守り、お客様第一主義に徹します。

私達は、明るい笑顔、愛する心、感謝の気持ちを大切にします。

私達は、常にサービスマインドを心がけ、真心を込めて介護を行います。

私達は、責任をもってお客様のプライバシーを守ります。

中間連結貸借対照表

(単位：千円、千円未満は切り捨て)

	2002年6月期中間期 2001年12月31日現在	2003年6月期中間期 2002年12月31日現在	2002年6月期 2002年6月30日現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	20,622,741	21,864,201	16,682,877
現金及び預金	5,877,074	11,042,362	7,071,706
受取手形及び売掛金	4,946,092	5,750,356	4,151,351
営業未収入金	3,144,144	4,418,700	3,666,614
営業貸付金	3,101,975		
営業投資有価証券	665,727		
繰延税金資産	152,631	173,045	196,541
前払費用	359,480	373,283	254,564
その他	2,451,793	157,986	1,389,350
貸倒引当金	76,180	51,534	47,251
固定資産	6,854,212	12,401,966	11,631,319
有形固定資産	1,894,923	1,670,580	1,640,633
建物	434,320	409,367	423,199
器具及び備品	1,083,074	889,843	856,770
土地	331,200	331,200	331,200
その他	46,327	40,168	29,462
無形固定資産	2,057,185	7,944,122	6,544,977
連結調整勘定	1,426,505	7,402,446	5,957,071
ソフトウェア	420,970	332,005	379,706
その他	209,709	209,669	208,199
投資その他の資産	2,902,103	2,787,264	3,445,708
投資有価証券	1,352,227	1,044,639	1,569,001
長期貸付金	188,558	416,520	778,590
繰延税金資産	70,786	152,464	75,653
破産債権等	268,966	190,079	183,771
貸借保証金	652,994	741,315	613,733
長期前払費用	337,283	240,704	185,937
その他	229,754	154,406	175,624
貸倒引当金	198,467	152,865	136,603
繰延資産	112	41	81
資産合計	27,477,065	34,266,209	28,314,278
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	12,765,230	17,218,233	12,218,695
短期借入金	8,563,698	11,400,374	7,816,715
1年以内償還予定社債	10,000	51,000	10,000
未払費用	2,527,930	3,375,857	2,441,625
未払法人税等	731,470	1,154,540	826,561
未払消費税等	337,765	428,876	395,986
その他	594,364	807,585	727,806
固定負債	817,889	257,865	578,717
社債	51,000		51,000
長期借入金	281,358	143,020	217,192
退職給付引当金	26,235	26,429	27,017
役員退職慰労引当金	18,083	20,499	21,083
その他	441,213	67,916	262,424
負債合計	13,583,120	17,476,099	12,797,412
<b>(少数株主持分)</b>			
少数株主持分	69,486	364,317	206,966
<b>(資本の部)</b>			
資本金	13,674,660		13,674,660
資本準備金	16,328,119		16,345,269
欠損金	16,187,899		14,692,647
その他有価証券評価差額金	9,718		16,853
自己株式	138		529
資本合計	13,824,459		15,309,899
資本金		13,674,660	
資本剰余金		16,345,269	
利益剰余金		13,577,408	
その他有価証券評価差額金		14,133	
自己株式		2,594	
資本合計		16,425,792	
負債、少数株主持分及び資本合計	27,477,065	34,266,209	28,314,278

## 中間連結損益計算書

(単位：千円、千円未満は切り捨て)

	2002年6月期中間期 2001年7月1日から 2001年12月31日まで	2003年6月期中間期 2002年7月1日から 2002年12月31日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで
売上高	23,337,960	29,002,333	47,295,638
売上原価	15,425,029	19,499,698	31,306,034
売上総利益	7,912,930	9,502,634	15,989,603
販売費及び一般管理費	6,327,074	7,014,230	12,233,259
営業利益	1,585,855	2,488,403	3,756,344
営業外収益	76,827	65,843	121,029
受取利息	6,274	15,594	10,732
受取配当金	47,432	9,280	47,432
その他	23,119	40,969	62,864
営業外費用	126,172	96,163	219,448
支払利息	68,050	83,034	140,400
出資金投資損失	37,332	7,956	49,056
その他	20,789	5,172	29,991
経常利益	1,536,510	2,458,083	3,657,925
特別利益	151,078	1,349,817	679,331
固定資産売却益	177		614
連結子会社株式売却益	121,723		202,332
関係会社株式売却益	12		12
前期損益修正益	29,165	2,140	29,495
受贈益		1,347,677	446,876
特別損失	228,472	1,347,878	482,308
固定資産除却損	59,104	16,544	219,212
固定資産売却損	2,814		6,742
連結子会社株式売却損	138,411		138,411
リース契約解約損	27,107		27,107
投資有価証券評価損		8,200	89,800
関係会社整理損	1,035		1,035
投資有価証券売却損		1,174,840	
持分変動損失		148,294	
税金等調整前中間(当期)純利益	1,459,116	2,460,022	3,854,948
法人税、住民税及び事業税	625,000	1,083,000	1,393,000
法人税等調整額	14,442	51,732	95,889
少数株主利益	5,916	144,942	156,600
中間(当期)純利益	842,642	1,283,813	2,401,236

## 中間連結剰余金計算書

(単位：千円、千円未満は切り捨て)

	2002年6月期中間期 2001年7月1日から 2001年12月31日まで	2003年6月期中間期 2002年7月1日から 2002年12月31日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで
欠損金期首残高	16,980,318		16,980,318
欠損金増加額	166,874		230,216
配当金	132,201		178,392
役員賞与	33,700		33,700
合併による欠損金増加	973		18,123
欠損金減少額	116,651		116,651
連結子会社減少による欠損金減少高	116,651		116,651
中間(当期)純利益	842,642		2,401,236
欠損金中間期末(期末)残高	16,187,899		14,692,647
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高			
資本準備金期首残高		16,345,269	
資本剰余金中間期末残高		16,345,269	
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高			
欠損金期首残高		14,692,647	
利益剰余金増加高			
中間純利益		1,283,813	
利益剰余金減少高		168,574	
配当金		138,574	
役員賞与		30,000	
利益剰余金中間期末残高		13,577,408	

# 中間単体財務諸表（要約版）

## 中間貸借対照表

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2002年6月期中間期 2001年12月31日現在	2003年6月期中間期 2002年12月31日現在	2002年6月期 2002年6月30日現在
<b>（資産の部）</b>			
流動資産	10,598,454	14,431,573	11,490,686
固定資産	30,429,607	31,075,933	31,225,903
有形固定資産	883,535	1,177,273	1,082,200
無形固定資産	305,980	279,384	316,559
投資その他の資産	29,240,092	29,619,275	29,827,143
資産合計	41,028,061	45,507,506	42,716,590
<b>（負債の部）</b>			
流動負債	7,982,215	10,752,822	8,779,614
固定負債	21,813	112,195	176,286
負債合計	8,004,028	10,865,018	8,955,901
<b>（資本の部）</b>			
資本金	13,674,660		13,674,660
資本準備金	16,328,119		16,345,269
利益準備金	47,826		47,826
その他の剰余金	2,984,022		3,705,415
その他有価証券評価差額金	10,456		11,953
自己株式	138		529
資本合計	33,024,033		33,760,689
資本金		13,674,660	
資本剰余金		16,345,269	
利益剰余金		4,639,287	
その他有価証券評価差額金		14,133	
自己株式		2,594	
資本合計		34,642,488	
負債及び資本合計	41,028,061	45,507,506	42,716,590

## 中間損益計算書

（単位：千円、千円未満は切り捨て）

	2002年6月期中間期 2001年7月1日から 2001年12月31日まで	2003年6月期中間期 2002年7月1日から 2002年12月31日まで	2002年6月期 2001年7月1日から 2002年6月30日まで
売上高	11,438,180	17,290,814	25,664,531
売上原価	7,399,543	11,599,213	16,745,351
売上総利益	4,038,637	5,691,601	8,919,180
販売費及び一般管理費	2,839,295	3,745,175	6,113,385
営業利益	1,199,342	1,946,426	2,805,794
営業外収益	94,018	113,419	120,499
営業外費用	80,109	77,122	152,412
経常利益	1,213,251	1,982,722	2,773,881
特別利益		1,175,000	
特別損失	36,276	1,190,845	179,683
税引前中間（当期）純利益	1,176,975	1,966,876	2,594,198
法人税、住民税及び事業税	504,763	974,558	1,230,000
法人税等調整額	35,541	62,301	39,092
中間（当期）純利益	636,670	1,054,619	1,403,290
前期繰越利益	2,347,351	3,535,875	2,347,351
中間配当額			46,191
利益準備金取崩額		47,826	
中間（当期）未処分利益	2,984,022	4,638,322	3,704,450

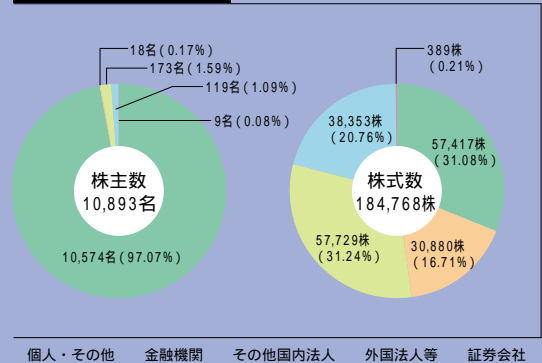
会社名	グッドウィル・グループ株式会社 (The Goodwill Group, Inc.)
所在地	東京都港区六本木4-8-7 六本木三河台ビル
代表者	折口 雅博
設立	1995年2月1日
資本金	136億7,466万円
事業内容	1. 経営コンサルティング 2. 物品の仕分け梱包及び配送業務の請負 3. パーティー、会議、催事の設営及び各種セレモニーの企画、運営管理の請負 4. 建築現場における清掃、資材搬入、撤去の請負
社員数	正社員578名 準社員777名 計1,355名

### 株主メモ

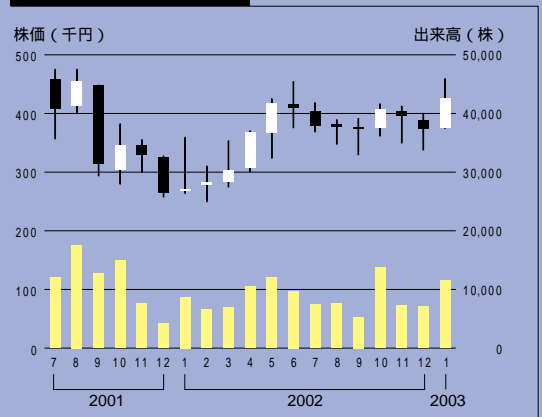
決算期  
6月30日  
定時株主総会  
毎年9月  
基準日  
毎年6月30日  
上記のほか必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日  
名義書換代理人  
東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
同事務取扱所  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL. 03-3323-7111 (代表)  
同取次所  
中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店  
(お知らせ) 住所変更、端株買取請求、名義書換請求、  
配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は名義書換代理人の  
フリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。  
公告掲載紙  
日本経済新聞  
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス  
<http://www.gwg.co.jp/kessan/index.html>

会社が発行する株式の総数	700,000株
発行済株式の総数	184,768株
株主総数	10,893名

### 所有者別株式分布状況



### 株価及び出来高の推移





## グッドウィル・グループ株式会社

お問い合わせ先：広報IR部

〒106-0032 東京都港区六本木4-8-7 六本木三河台ビル

Tel: 03-3405-9385 Fax: 03-3405-9448

ホームページ <http://www.gwg.co.jp>

IRサイト <http://www.internetir.jp/goodwill>